

一般社団法人日本疫学会 疫学専門家認定制度 新規申請要項

日本疫学会は会員の知識と技量を評価、認定し、社会に貢献する疫学研究を推進できる人材を養成することを目的として、疫学専門家認定制度を発足します。本制度で認定する疫学専門家は**疫学専門家**と**上級疫学専門家**です。疫学専門家の認定は**疫学専門家認定制度に関する細則**に従って審査されます。

疫学専門家認定はそれぞれの申請書類を用いて審査を行います。この要項に沿って、不備のないよう注意深く申請書の作成をお願いいたします。

1. 認定資格

(1) 日本疫学会認定疫学専門家

疫学研究を分担して実施できる人

(2) 日本疫学会認定上級疫学専門家

疫学研究の主導やコンサルテーション、疫学者の育成・指導ができる人

2. 新規認定要件

(1) 疫学専門家（以下の要件をすべて満たすこと）

- 1) 申請時点で**3年以上の会員歴**を有し、前年度までの**会費を全納**していること
- 2) 別表に基づき、各表に記載の条件を満たし、かつ合計で**150ポイント以上**を得ていること
- 3) 指定の様式に基づき、疫学研究の活動実績を記した**レポートを提出**し、その内容が「疫学研究を分担して実施できる」という要件を満たしていると認められること
- 4) 疫学専門家認定**筆記試験**に合格すること

※会員歴には、学部在籍期間を含まない

(2) 上級疫学専門家（以下の要件をすべて満たすこと）

- 1) **疫学専門家の認定**を受けており、前年度までの**会費を全納**していること
- 2) 別表に基づき、各表に記載の条件を満たし、かつ合計で**350ポイント以上**を得ていること
- 3) 指定の様式に基づき、疫学研究や教育に関連する活動実績を記した**レポートを提出**し、その内容が「疫学研究の主導やコンサルテーション、疫学者の育成・指導ができる」という要件を満たしていると認められること

※申請時点で**7年以上の会員歴**（学部在籍期間を除く）を有すること（「疫学研究の主導やコンサルテーション、疫学者の育成・指導ができる」ための客観的な基準として7年以上の会員歴を設定しています）

3. 認定制度発足にあたっての経過措置

2019 年度および 2020 年度の申請に限り、疫学専門家と上級専門家の認定を同時に申請可能です。上級疫学専門家の認定対象となった場合には、疫学専門家の認定条件である疫学専門家認定筆記試験は免除されます。

4. 更新

疫学専門家認定は、5 年ごとにその更新を受けなければ失効します。

更新要件は、疫学専門家、上級疫学専門家ともに、前年度までの会費を全納しており、過去 5 年間で 100 ポイント以上を得ていることとします。また、日本疫学会での生涯学習活動について最低 25 ポイント以上かつ 3 回以上の学術総会もしくは日本疫学会が主催または認定するセミナーへの参加が必要です。

5. 審査スケジュール(予定)

(1) 疫学専門家

- 1) 申請期間 2019 年 11 月 1 日～11 月 20 日
- 2) 書類審査 2019 年 11 月 21 日～ 2020 年 1 月 20 日
その後、書類審査の結果発表、筆記試験の詳細の通知
- 3) 筆記試験 2020 年 2 月 22 日 第 30 回学術総会終了後
試験会場： 京都大学吉田キャンパス (<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/>)
- 4) 発表 2020 年 3 月を予定

(2) 上級疫学専門家

- 1) 申請期間 2019 年 8 月 19 日～ 9 月 10 日
- 2) 書類審査 2019 年 9 月 11 日～10 月 31 日
- 3) 発表 2019 年 10 月 31 日

6. 申請書類と申請方法

(1) 申請書類

- 1) 申請書・経歴（様式1、PDFファイル）
- 2) 研究業績書（様式2、Excelファイル）
- 3) 認定レポート（様式3、4、WordファイルまたはそのZIPファイル）

※以下の4)～10)は、PDFファイルまたはそのZIPファイルをアップロードして下さい。

- 4) 審査料の振込証明書
- 5) 論文（研究業績「1.疫学研究に関する論文業績」に記載した論文のPDFまたはZIPファイル）
- 6) 生涯学習活動に関する演題発表の抄録および参加証等
- 7) 疫学専門家認定レポートに関する資料（必要な場合のみ）
- 8) 疫学研究の主導に関する資料（上級疫学専門家のみ）
- 9) コンサルテーションの対応に関する資料（上級疫学専門家のみ）
- 10) 疫学者の育成・指導活動に関する資料（上級疫学専門家のみ）

※ 申請書類に関する注意事項

- 3) **経過措置**に基づいて疫学専門家と上級疫学専門家の認定を同時に申請される方は、**疫学専門家認定レポート(様式3)と上級疫学専門家認定レポート(様式4)の両方を上級疫学専門家の申請期間内に提出**して下さい。
- 6) 2015年～2019年の疫学専門家認定制度発足までの5年間に開催された学術総会およびセミナーについては、参加証を添付しなくても研究業績書（様式2）に記載していただければ結構です。2014年以前については参加証の提出が必要ですが、参加申込受付メールのコピー、講演集の表紙のコピー等でも結構です。ただし、演題発表した場合には、証拠書類（抄録等）を必ず添付して下さい。
- 8) 研究の名称、助成元、研究班構成、概要がわかる資料を数ページで抜粋して添付して下さい。研究報告書を送付する場合は、例えば、表紙と総括研究報告の1ページ目など、必要事項がわかるページを抜粋してお送り下さい。事務局での処理ができませんので、研究報告書そのものを郵送しないようにお願いします。なお、それらがわかる記載がされているホームページのURL（アドレス）を研究業績書に記載していただければ、添付していただかなくても結構です。
- 9) 謝辞への記載または共著者としての参画の場合、それが確認できる論文を添付して下さい。研究班への疫学担当者としての参画の場合は、上記の8)と同様のものを添付して下さい。
- 10) 修士または博士の学生の主任指導、補佐的指導については、そのことがわかる学位申請要旨等を添付して下さい。また、疫学に関する授業、講演、セミナーの講師については、シラバス、講演やセミナーのチラシや次第等を添付して下さい。
上級疫学専門家認定レポートに記載した2件については、申請者が育成・指導した人が筆頭著者となっている論文または学会発表の抄録を添付するとともに指導期間や指導内容をレポートに記載して下さい。

※日本疫学会への貢献活動については、資料の添付は不要です。

※ ファイル名の付け方

ファイル名の頭には、【会員番号の末尾 4 桁の数字】 - 【申請書類の項目番号】 (p.3 参照) - 【連番 (同じ項目に複数のファイルがある場合)】 を付けて下さい。その後ろは任意で結構です。

ファイル名の例

0099-01-令和太郎申請書・経歴.pdf

0099-02-令和太郎研究業績書.xlsx

0099-05-1-令和太郎論文 JE2017.pdf 0099-05-2 令和太郎論文.zip

(2) 申請方法

認定を希望する方は申請書類を**学会ホームページの日本疫学会認定疫学専門家 電子申請システムからアップロード**して送付ください。研究業績書については Excel ファイル、認定レポートは Word ファイル、その他は PDF ファイルでアップロードしてください。申請書類の 5) ~10) の各区分で複数のファイルがある場合には、区分毎にひとつの ZIP ファイルにまとめて、アップロードしてください。

申請の際には、この新規申請要項の最終ページにある「申請書類 チェック表」に基づき、申請書類に不備がないかを必ず再確認の上、申請の完了を行ってください。

原則として、電子申請でのみ受付を行います。何かご不明な点がありましたら、日本疫学会事務局までお問い合わせください。

1) 電子申請システム <http://senmonka.jeaweb.jp/application/index.html#houhou>

2) 問い合わせ先 jea@jeaweb.jp

(3) 認定審査料

- 1) 認定審査料は疫学専門家、上級疫学専門家の各審査につきそれぞれ 1 万円です。
- 2) 疫学専門家と同時に上級疫学専門家を申請する場合の認定審査料は、2 万円です。
- 3) 更新認定審査料は 1 万円です。

申請にあたって認定審査料を下記口座に振り込んでください。

みずほ銀行 本郷支店 (普) 4 1 3 7 3 1 2

一般社団法人日本疫学会 シヤ) ニホンエキガツカイ

※振込み時には名前の前に会員番号 (末尾 4 桁の数字) を記入してください。

7. 申請書・経歴の記入要領

様式1に記入して提出してください。

(1) 申請書

疫学専門家と上級疫学専門家のどちらに申請するか、文字の囲み線、または○で選択してください。経過措置により同時に申請する場合は、両者とも選択してください。

(2) 日本疫学会会員歴

疫学専門家は、申請時点で3年以上の会員歴、上級疫学専門家は7年以上の会員歴が必要となります。いずれも学部在籍期間を除きます。ただし、社会人学部学生として、その期間も疫学研究に従事していた場合は含めることができます。

会員専用ページの「登録内容確認・変更」画面で入会日を確認の上、申請日時点における会員歴を記入してください。

(3) 学歴

大学または医療系資格を取得した専門学校入学以降（学校名・専攻名）について在籍中の期間を西暦で記入してください。社会人学生だった場合には、その旨を付記してください。

取得学位がある場合にはそれも記入してください。

記入例：大学

| 入学/卒業（年月～年月） | 学校名・専攻名・取得学位など |
|-------------------------|--------------------------|
| 1981年4月入学 ～1987年3月卒業 | 〇〇〇医科大学・医学部・医学科、学士（医学）取得 |

記入例：専門学校

| | |
|-------------------------|-------------------------------|
| 1992年4月入学 ～1993年3月卒業 | 〇〇〇県衛生学院保健師コース、保健師国家試験受験資格を取得 |
|-------------------------|-------------------------------|

記入例：大学(社会人)

| | |
|-------------------------|---------------------------|
| 2002年4月入学 ～2009年3月卒業 | 〇〇〇大学教養学部、学士（学術）を取得、社会人学生 |
|-------------------------|---------------------------|

記入例：論文博士

| | |
|-----------|--|
| 2014年9月取得 | 博士（医学）を〇〇〇医科大学大学院より論文博士として授与 （2008年10月～2014年9月 〇〇〇医科大学大学院研究生） |
|-----------|--|

(4) 免許・資格等

疫学専門家に関連する免許や資格を記入してください。

(例) 医師、保健師、日本計量生物学会試験統計家、日本臨床疫学会認定専門家、日本公衆衛生学会認定専門家、統計検定など

(5) 職歴

疫学専門家に関連すると考えられる職歴を記入してください。

8. 研究業績書の記入要領

所定の研究業績書(様式2:Excelファイル)に記入して提出してください。いずれの項目においても、これまでの全ての業績・活動等を記入する必要はなく、認定に必要なポイント分、またはそれを若干上回る業績・活動等を記入していただければ結構です。なお、記載した論文は、複数の論文(PDFファイル)をまとめてZIPファイルにした上で添付してください。

(1) 疫学研究に関する論文業績 (別表1)

- ・別紙の別表1を参照して疫学研究に関する論文情報を研究業績書(様式2)に記入してください。
- ・論文業績は、査読付きの原著、総説について算定します。短報も算定して結構です。一方で、レターや論壇は算定できません。
- ・「論文業績」に関して認定に必要なポイントは、疫学専門家が100ポイント以上、上級疫学専門家は200ポイント以上です。
- ・論文が複数ある場合は一つの枠内に1篇の論文情報を記入してください。
- ・申請者名に下線を引いてください。
- ・別表1を参照して、ポイント欄に該当するポイント、要件番号欄に要件番号を記入してください。また、基準記号欄については下記に記載している記号(A, B, C)を記入してください。
- ・掲載誌がJournal of Epidemiologyの場合は各5ポイントを加点してください。
- ・当該論文が疫学研究かどうかについては以下の基準のいずれかに該当するものを疫学研究の論文とみなします。
 - 1) 疫学研究であるか否かの判断には、基準A>基準B>基準Cの順に優先して使用します。
 - 2) 疫学研究であるか否かについてなるべく疑義の小さい論文を優先して記入してください。

基準 A. 疫学研究であることが明らかな雑誌に掲載されている論文

(以下の雑誌)

- ・ Journal of Epidemiology (JE)
- ・ International Journal of Epidemiology (IJE)
- ・ American Journal of Epidemiology (AJE)
- ・ Annals of Epidemiology
- ・ Cancer Epidemiology
- ・ Epidemiology
- ・ European Journal of Epidemiology

・ Journal of Clinical Epidemiology

基準 B. 疫学指標を算定しており、かつ、分析単位が個人・地域等である論文

(例: 疫学指標)

- ・ 相対危険、寄与危険、罹患率、有病率、健康関連指標の平均値
(相対危険には、hazard ratio, prevalence ratio, odds ratio を含む)
- ・ 研究業績書の各論文の**備考欄に、分析単位、使用した疫学指標を記入してください。**
(使用した疫学指標としては、上記の例示の前に並んでいるものを優先して1つ記入していただければ結構です)

(例: 疫学研究としないもの)

- ・ 分析単位が、実験統制下でのマウス等の動物、細胞等のもの
- ・ 自施設及び関連病院でのケースシリーズ

(例: 典型的でないが疫学研究に含めるもの)

- ・ 動物を対象とした人獣共通感染症の有病率
- ・ 保健医療従事者や施設を分析単位としたある要因の該当割合の記述疫学や、その関連要因の分析疫学
- ・ 分析単位が眼や腕などで1人について2つのデータがあるもの

基準 C. 疫学方法論に関する研究論文

(例: 疫学方法論に関する論文)

- ・ 疫学研究倫理、疫学分析方法の開発

(例: 疫学研究としないもの)

- ・ 一般倫理、臨床倫理
 - ・ 純粋な統計数理モデルの開発
- (新しい数理モデルを疫学研究に即して記載した論文は疫学研究に含める)

記入例: 疫学研究に関する論文業績

| 著者名・タイトル・雑誌名・発行年・巻号・ページ数 | ポイント | 要件番号 | 基準記号 | 備考 |
|--|------|------|------|--------------------------------|
| Meiji A, Taisho B, Showa C, <u>Reiwa D.</u> Distribution of serum ○○○ levels of older men. J Prev Med. 20○○;33(3):133-233. | 60 | 1 | B | 分析単位：個人 疫学指標：健康関 連指標の平均値 |

(2) 日本疫学会での生涯学習活動（別表2）

- ・別紙の別表2を参照して、日本疫学会での生涯学習活動に関する情報を研究業績書（様式2）に記入してください。
- ・「生涯学習活動」に関して認定に必要なポイントは、疫学専門家/上級疫学専門家とも25ポイント以上かつ3回以上の学術総会もしくは日本疫学会が主催または認定するセミナーへの参加が必要です。
- ・学術総会での演題発表については、発表者名・発表タイトル・開催地・開催年を記入するとともに申請者名に下線を引いてください。
- ・学術総会やセミナーへの参加については総会名/セミナー名・開催地・開催年を記入してください。
- ・別表2を参照して、ポイント欄と要件番号欄に該当するポイントと要件番号を記入してください。
- ・ひとつの学術総会に付随して行われるセミナーはいずれか1件のみを算定できます。

学術総会に参加し、演題発表をした場合の書き方

- ・「日本疫学会での生涯学習活動に関する情報」と「要件番号」の欄
＜学会総会での演題発表＞と＜学会総会もしくは日本疫学会が主催または認定するセミナーへの参加＞の両方に、同じ学会に関する演題発表と参加をそれぞれ記述してください。

- ・「ポイント」欄
＜学会総会での演題発表＞のみ所定のポイントを入力し、＜学会総会もしくは日本疫学会が主催または認定するセミナーへの参加＞の学術総会への参加は0と入力してください。

※同じ学会総会への参加と演題発表で重複してポイントをカウントすることはできませんが、学会総会参加回数も確認するため、このような記載方法をお願いしています。

- ・同一の学会総会において、参加・演題発表に加えてセミナーに参加された場合は、セミナー参加のポイントは独立してカウントできます。セミナー名を記入し、ポイント欄に所定のポイントを記入してください。学術総会参加（共同演者としての演題発表も含む）＋セミナー参加は10ポイント、学術総会参加＋筆頭発表者としての演題発表＋セミナー参加は15ポイントです。

記入例:演題発表

昭和美咲, 令和翔太, 鈴木一郎, 大正太郎, 山田花子. ○○○の標準的な質問で評価した生活習慣と○○○の関連. 東京, 2019年

記入例:学術総会への参加

第○○回日本疫学会学術総会. 東京, 20○○年

記入例:セミナーへの参加

第○○回日本疫学会学術総会: 疫学セミナー. 東京, 20○○年

(3) 疫学研究の主導、コンサルテーションの対応、疫学者の育成・指導活動（別表3）

- ・ 上級疫学専門家への申請者のみ記入してください。
- ・ 別紙の別表3を参照して疫学研究の主導、コンサルテーションの対応、疫学者の育成・指導活動それぞれに関する情報を研究業績書（様式2）に記入してください。
- ・ これらに関して認定に必要なポイントは、上級疫学専門家のみ60ポイント以上で、かつ、疫学研究の主導、コンサルテーションの対応で各20ポイント以上が必要です。
- ・ 別表3を参照して、ポイント欄と要件番号欄に該当するポイントと要件番号を記入してください。

(3)－1. 疫学研究の主導

記入例：研究代表者

〇〇〇疾患の〇〇〇解明のための多施設前向き共同研究。基盤研究（A）、研究代表者、20〇〇年4月～20〇〇年3月（3年間）

※ポイントは1年あたり40ポイントですので、3年間の場合は120ポイントになります。

記入例：研究分担者

〇〇〇疾患に関わる〇〇〇開発。AMED、研究分担者、20〇〇年4月～20〇〇年3月（3年間）

※ポイントは1年あたり20ポイントですので、3年間の場合は60ポイントになります。

(3)－2. コンサルテーションの対応

記入例：論文の謝辞への記載

統計解析方法について助言し論文の謝辞に記載：Meiji A, Taisho B, Showa C, Reiwa D. Distribution of serum 〇〇〇 levels of older men. J Prev Med. 20〇〇;33(3):133-233.

※謝辞が記載されている論文の情報を記入してください。

記入例：研究班への疫学担当者としての参画

臨床医を中心とした研究班に疫学担当の研究分担者として参画：種々の症状を呈する〇〇〇における〇〇〇の役割の解明とそれによる患者ケアの向上（研究代表者：鈴木一郎〇〇〇医科大学神経内科学教授）。厚生労働科学研究、20〇〇年4月～20〇〇年3月（3年間）

※ポイントは1年あたり10ポイントですので、3年間の場合は30ポイントになります。

(3)－3. 疫学者の育成・指導活動

- ・ 博士の学生の指導には、論文博士も算定します。
- ・ 補佐の指導には、副指導教員に選任されているなど指導する立場であることが大学院等において公式に記録されている場合のみに算定します。
- ・ 疫学に関する授業、講演、セミナーの講師はあなた自身が担当したものについて算定し、1時間未満の端数は切り捨てます。

記入例: 修士および博士の学生の主任指導

博士課程学生の主任指導：鈴木一郎、令和花子

※主任指導のポイントは修了学生1人あたり20ポイントですので、2人の場合は40ポイントになります。

記入例: 疫学に関する授業

〇〇〇県衛生学院保健師コースにて「疫学・保健統計」の講義・演習を担当：20〇〇年度～20〇〇年度、90分×15回、合計112時間

記入例: 疫学に関する講演、セミナーの講師

〇〇〇県健康増進課主催研修会にて「統計分析」の講義を担当：20〇〇年6月11日（90分）、6月12日（120分）、20〇〇年6月10日（90分）、6月11日（120分）、合計7時間

(4) 日本疫学会への貢献活動（別表4）

- ・本項目に関係するポイントが無くても差し支えありません。
- ・別表4を参照して**日本疫学会への貢献に関する情報**を研究業績書（様式2）に記入してください。
- ・別表4を参照して、ポイント欄と要件番号欄に該当するポイントと要件番号を記入してください。

記入例: 学術総会における基調講演等の演者

学術総会における基調講演等の演者：日本疫学会企画「〇〇〇〇〇〇〇〇」、第〇〇回日本疫学会学術総会、東京、20〇〇年

記入例: 学術総会における一般発表の座長

学術総会における一般発表の座長：第〇〇回日本疫学会学術総会、一般口演（1）、福島、20〇〇年

※総会名、担当したセッション名、開催地、開催年を記入してください。

記入例: 受賞

奨励賞受賞：第〇〇回日本疫学会学術総会、東京、20〇〇年

記入例: 学会誌 (Journal of Epidemiology) の査読

学会誌 (Journal of Epidemiology) の査読：20〇〇年（2回）、20〇〇年（1回）、20〇〇年（2回）

※オンライン投稿・査読システムを導入した2008年10月1日以降に査読した回数をポイントとしてカウントしてください。

記入例: 委員および代議員

広報委員会委員：20〇〇年1月～20〇〇年2月（4年間）

※ポイントは1年あたり10ポイントですので、4年間の場合は40ポイントになります。

9. 認定レポートの記入要領

- ・それぞれの欄について、全角 300 字（半角 600 字）程度以内にて記載してください。なお、必要な場合には冗長にならない範囲で若干超過しても結構です。
- ・原則として 10.5 ポイントのフォントで入力してください。
- ・記入欄は、必要に応じて拡大してください。

(1) 疫学専門家認定レポート（様式 3）

レポートには、これまでの疫学研究の活動実績を簡潔に記入してください。本レポートによって、疫学専門家の認定要件である疫学研究を分担して実施できるかどうか、特に、①研究計画策定の経験、②データ収集実務の経験（対象者への問診やインフォームドコンセントの取得、関係機関との調整など）の有無を評価します。

- ・「研究計画策定の経験」、「データ収集実務の経験」をそれぞれひとつずつ記入してください。
- ・両者を一つの研究で経験した場合は 2 つの記入内容の多くが重複していても問題ありません。
- ・それぞれの経験に関する主要な部分に下線を引いてください。
- ・経験した研究の客観的な証明として、当該研究を確認することができる論文情報、学会発表情報、ホームページの URL（アドレス）を記入してください。その研究に関して論文、生涯学習活動の演題発表の抄録を添付しているものについては、その旨を付記して下さい。
- ・論文、演題発表の抄録、ホームページで確認できない研究の場合は、研究の名称、助成を受けている場合には助成元、研究班構成、概要がわかる資料を数ページで抜粋して添付して下さい。

(1)－1. 研究計画策定の経験

- ・申請者自身が研究計画策定を行った経験があり、研究計画策定ができると認められることを認定条件とします。
- ・申請者自身がどのような創意工夫等を行って研究計画策定を行ったのかがわかるように記載してください。論文化や学会発表に至っている研究であれば、小規模な疫学研究や、大きな研究の中のあるサブ研究に関する研究計画策定でも構いません。
- ・申請者以外によって策定された研究計画に沿って研究遂行や論文化等を行った経験のみの場合は認定されません。

(1)－2. データ収集実務の経験

- ・申請者自身がデータ収集実務を行った経験があり、データ収集実務ができると認められることを認定条件とします。
- ・対象者への問診やインフォームドコンセントの取得、郵送調査の企画・準備等、一次データの収集実務の経験がある場合には、それを優先して記載してください。
- ・一次データ収集実務の経験は無く、健診や医療データ等の二次データを活用した研究の経験のみの場合には、そのデータを使用するために申請者自身がどのように関係機関との調整を行ったか、申請者自身の創意工夫によりどのような込み入ったデータクリーニング作業手順を作り上げたかなどがわかるように記載してください。
- ・研究グループ内で配布されたデータセットや、確立した手順に沿ってデータ使用申請を行って入手し

たデータの分析により論文等を行った経験のみの場合は認定されません。

記入例:研究計画策定の経験

〇〇〇において〇〇〇の適切な摂取は〇〇〇〇に重要であることから、妊婦における〇〇〇の分布を明らかにすることを目的に研究を行った。申請者は、対象地域内の3箇所全ての〇〇〇医療機関の協力を得て、地域の代表性のある対象者での〇〇〇測定を行う研究計画を策定した。また、協力率を向上させるため、研究の意義をわかりやすく説明した説明文書を作成した。研究の実施について、〇〇〇〇大学の倫理委員会の審査を受け、承認を得た。20〇〇年〇月～20〇〇年〇月に研究を実施し、〇〇〇人（協力率65%）についての血液データを得て研究を実施した。

【関連業績】

原著論文：昭和美咲，令和翔太，鈴木一郎，大正太郎，山田花子．日本人の〇〇〇における〇〇〇の分布．日本公衆衛生雑誌.20〇〇;33(3):123-133.（論文を添付）

記入例:データ収集実務の経験

平成〇〇〇年度厚生労働科学研究費補助金循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業『〇〇〇に関する研究』において、〇〇〇による〇〇〇や〇〇〇への影響を明らかにする観察疫学研究を行った。申請者は、研究分担者として参画し、〇〇町役場に協力を依頼して調整を行い、20〇〇年4月～9月に特定健康診査に併せて自記式質問紙調査を行い、データを収集した。

【関連業績】

ホームページの URL：

<http://mhlw-grants.niph.go.jp/niph/search/NIDD00.do?resrchNum=000000000>

学会発表：昭和美咲，令和翔太，鈴木一郎，大正太郎，山田花子．特定健康診査対象者における〇〇〇と〇〇〇の関連．第〇〇回日本疫学会学術総会、〇〇、20〇〇年（抄録を添付）

(2) 上級疫学専門家認定レポート（様式4）

レポートには、疫学研究の主導、コンサルテーション対応、疫学者の育成・指導に関する活動内容を具体的に記入してください。本レポートによって、上級疫学専門家の認定要件である疫学研究の主導やコンサルテーション、疫学者の育成・指導ができるかどうかを中心に評価します。

- ・各区分それぞれ2つの実績活動を記入してください。認定条件として2件以上としていますが、それぞれ2件記載していただければ結構です。
- ・それぞれの項目について主要な部分に下線を引いてください。

(2)–1. 疫学研究の主導

- ・研究課題に関して、予算獲得や研究遂行の実質的責任者としての活動実績（記入内容の例：獲得した研究資金、自身の果たした役割、研究方法や成果の概要など）を記入してください。
- ・2件以上（1件以上は日本学術振興会科学研究費助成事業（科研費）、厚生労働科学研究費補助金、日本医療研究開発機構（AMED）などの公的な競争的研究費）を研究代表者として実施していて、かつその内容が疫学研究の主導ができると認められることを認定条件とします。

- ・疫学研究主導の客観的な証明として、当該研究を確認することができるホームページの URL (アドレス) を記入してください。適切なホームページが無い場合は、研究の名称、助成元、研究班構成、概要がわかる資料を数ページで抜粋して添付してください。

記入例:疫学研究の主導

日本学術振興会科学研究費助成事業『〇〇〇』の研究費を研究代表者として獲得した(基盤研究(〇)、20〇〇～20〇〇年度)。〇〇〇の協力の元、〇〇〇の〇〇〇を対象に調査を実施した。その結果、〇〇〇における〇〇〇の発生状況および疫学的特性を明らかにした。

【関連業績】

- ホームページの URL : 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
- 原著論文 : 〇〇〇〇〇〇〇〇〇 (論文を添付)
- 学会発表 : 〇〇〇〇〇〇〇〇〇

記入例:疫学研究の主導

〇〇〇のための〇〇〇研究助成『〇〇〇』の研究費を獲得した(20〇〇～20〇〇年度)。研究責任者として本研究を主導し、〇〇〇に協力を依頼して全国の〇〇〇の〇〇〇データを手し、〇〇〇の〇〇〇統計とを結合することで、我が国の〇〇〇で起こる〇〇〇の発生状況から予後までの全体像が把握できる前向きレジストリを構築した。全国の〇〇〇で発生した〇〇〇の現状、これまでの〇〇〇対策の効果と課題を明らかにした。

【関連業績】

- ホームページの URL : 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
- 学会発表 : 〇〇〇〇〇〇〇〇〇

(2)–2. コンサルテーション対応

- ・研究におけるデザイン、サンプルサイズ設計、介入の割り付け、データ解析など、疫学の専門家として研究の実施や論文作成の支援を行った実績(記入内容の例:自身が果たした役割、研究成果の概要など)を記入してください。
- ・謝辞に記載されているまたは共著者となっている論文、研究班への疫学担当者としての参画がわかる資料を添付して下さい。研究業績書に関して添付している場合には、それで結構です。また、URL (アドレス) を記載したホームページで研究班への参画が確認できる場合はそれで結構です。
- ・2 件以上のコンサルテーション対応を実施していて、かつその内容からコンサルテーション対応ができると認められることを認定条件とします。

記入例:コンサルテーション対応

〇〇〇の〇〇〇医師より依頼を受け、〇〇〇を受けた患者における〇〇〇の実施と短期的・長期的予後との関連を明らかにする観察研究のデータ解析および論文執筆を補佐した。

【関連業績】

ホームページの URL： 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

以下の原著論文に謝辞が記載： 〇〇〇〇〇〇〇〇〇 (論文を添付)

学会発表： 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

記入例:コンサルテーション対応

〇〇〇の〇〇〇より依頼を受け、〇〇〇アプリケーションの効果を明らかにするランダム化比較試験の割り付け責任者を担当した。研究協力者〇〇〇名について〇〇〇をキーとした層別ブロックランダム割り付けを行い、研究実施に貢献した。

【関連業績】

以下の URL のホームページに研究分担者である旨が記載： 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

原著論文： 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

学会発表： 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

(2)–3. 疫学者の育成・指導

- ・ある期間に実質的に中心的に育成・指導を行い、指導を受けた人が筆頭著者となって、論文作成または学会発表に至ったものを記入し、指導期間や指導内容、当該研究の論文や学会発表の内容を記入してください（共著者名は全員を記載してください）。
- ・その論文や抄録を添付して下さい（研究業績書に関する論文、生涯学習活動の演題発表の抄録として添付している場合には、それで結構です。）
- ・2件（2人）以上の疫学者の育成・指導実績があり、かつその内容から疫学者の育成・指導ができると認められることを認定条件とします。

記入例:疫学者の育成・指導

〇〇大学大学院博士課程の大学院生であった〇〇〇氏の学位（博士号）取得にあたり、主任指導教授の概括的な指導のもと、申請者は20〇〇年～20〇〇年の期間に、調査実施、データ解析、論文執筆についての日常的な指導を担当した。〇〇〇を対象とした〇〇〇調査を実施し、〇〇〇と〇〇〇との関連を明らかにした。

【関連業績】

原著論文： 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 (論文を添付)

学会発表： 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

記入例:疫学者の育成・指導

共同研究を行っている〇〇市保健所勤務の〇〇〇氏に対して、〇〇市の特定健康診査データを活用した地域診断のため、申請者は20〇〇年～20〇〇年の期間に、研究デザイン、データ解析、学会発表について指導を行った。研究成果は〇〇市健康増進計画の策定にも活用され、また〇〇〇氏はこの研究の経験を活かして根拠に基づく公衆衛生活動を実践している。

【関連業績】 学会発表： 〇〇〇〇〇〇〇〇〇 (抄録を添付)

別表 1. 疫学研究に関する論文業績^{*1}

(新規の場合、疫学専門家：100 ポイント以上かつ 1 篇以上の指定データベース^{*2}に掲載されている雑誌^{*3}の原著もしくは総説の責任著者/最終著者/筆頭著者/第二著者論文が必要、上級疫学専門家：200 ポイント以上かつ 3 篇以上の指定データベース^{*2}に掲載されている雑誌^{*3}の原著もしくは総説の責任著者/最終著者/筆頭著者/第二著者論文が必要)

| 項目 | ポイント | 要件番号 |
|--|------|------|
| 指定データベース ^{*2} に掲載されている雑誌 ^{*3} の 原著もしくは総説の責任著者/最終著者/筆頭著者/第二著者 | 60 | 1 |
| 指定データベース ^{*2} に掲載されている雑誌 ^{*3} の 原著もしくは総説の責任著者/最終著者/筆頭著者/第二著者以外の共著者 | 30 | 2 |
| 指定データベース ^{*2} に掲載されていない雑誌 ^{*3} の 原著もしくは総説の責任著者/最終著者/筆頭著者/第二著者 | 20 | 3 |
| 指定データベース ^{*2} に掲載されていない雑誌 ^{*3} の 原著もしくは総説の責任著者/最終著者/筆頭著者/第二著者以外の共著者 | 10 | 4 |

*1：掲載誌が Journal of Epidemiology の場合は各 5 ポイントを加点する。

*2：指定データベースとは、Web of science/Scopus/PubMed いずれかのデータベース

*3：日本語の雑誌を含む。

別表 2. 日本疫学会での生涯学習活動^{*4,*5}

(新規/更新、疫学専門家/上級疫学専門家とも最低 25 ポイント以上かつ 3 回以上の学術総会もしくは日本疫学会が主催または認定するセミナーへの参加^{*6}が必要)

| 項目 | ポイント | 要件番号 |
|---------------------------------------|------|------|
| 学術総会での演題発表（筆頭発表者） | 10 | 1 |
| 学術総会での演題発表（共同研究者） | 5 | 2 |
| 学術総会への参加のみ（演題発表と重複する場合にはポイントは 0 となる） | 5 | 3 |
| 日本疫学会が主催または認定するセミナーへの参加 ^{*6} | 5 | 4 |

*4：日本疫学会または国際疫学会が主催する学会活動。

*5：ひとつの学術総会で複数該当する場合は、最もポイントが高い項目を選択する。

*6：学術総会に付随するセミナーは学会参加に加えて算定できる。

別表 3. 疫学研究の主導、コンサルテーションの対応、疫学者の育成・指導活動

(上級疫学専門家：計 60 ポイント以上、かつ疫学研究の主導、コンサルテーションの対応で各 20 ポイント以上が必要)

| 項目 | ポイント | 要件番号 |
|------------------------------------|------|------|
| <疫学研究の主導> | | |
| 公的研究費 ^{*7} の研究代表者（1 年につき） | 40 | 1 |
| 公的研究費 ^{*7} の研究分担者（1 年につき） | 20 | 2 |
| それ以外の研究の研究代表者（1 年につき） | 20 | 3 |

| | | |
|--------------------------------|----|---|
| <コンサルテーションの対応> | | |
| 論文の謝辞への記載 | 10 | 4 |
| 論文の共著者としての参画*8 | 10 | 5 |
| 研究班への疫学担当者としての参画（1年につき）*9 | 10 | 6 |
| <疫学者の育成・指導活動>*9 | | |
| 修士または博士の学生の主任指導（修了学生1人につき）*10 | 20 | 7 |
| 修士または博士の学生の補佐的指導（修了学生1人につき）*10 | 10 | 8 |
| 疫学に関する授業、講演、セミナーの講師（1時間につき） | 1 | 9 |

*7：日本学術振興会、厚生労働省または他省庁、日本医療研究開発機構（AMED）の研究費。

*8：同じ論文については、論文業績といずれかのみに計上できる。

*9：自らが研究代表者の場合は計上できない。

*10：論文博士を含む。

別表 4. 日本疫学会への貢献活動*4（該当のポイントが無くても差し支えない）

| 項 目 | ポイント | 要件番号 |
|---|------|------|
| <学術総会>*11 | | |
| 基調講演、教育講演、シンポジウム等の演者 | 40 | 1 |
| 一般発表やシンポジウム等の座長 | 20 | 2 |
| <受賞> | | |
| 功労賞、奨励賞、Best Reviewer、Paper of the Year の受賞 | 40 | 3 |
| 一般発表における筆頭発表者としての受賞 | 20 | 4 |
| 一般発表における共同研究者としての受賞 | 5 | 5 |
| <学会誌：Journal of Epidemiology> | | |
| Original article や Review の査読*12 | 5 | 6 |
| <委員および代議員>*13 | | |
| 委員会の委員/WG のメンバー | 10 | 7 |
| 代議員 | 10 | 8 |
| <役員および委員長/WG 活動>*14 | | |
| 理事/監事/学会長/名誉会員 | 50 | 9 |
| 委員長/WG 長 | 40 | 10 |
| 副委員長/副 WG 長 | 30 | 11 |

*11：ひとつの学術総会で複数該当する場合は、最もポイントが高い項目を選択する。

*12：査読回数×5ポイントとする。

*13：各委員会等各1年あたり10ポイントとする。

*14：複数年、複数種類の場合も、最もポイントが高い項目を1つ選択する。

なお、*13と重複して計上できる。

疫学専門家 申請書類 チェック表

【注 意】 申請完了ボタンをクリックする前に、下記の表にしたがって
必ず再確認をお願いいたします

| 項目番号 | 申請書類 | アップロードする前に確認 | | アップロードの際に確認 | 申請要項参考ページ |
|------|---|-----------------|----------------------|-------------------------------|-------------------|
| | | 記載漏れはありませんか | ファイル名をつけましたか (p.4参照) | 申請書類1)~10)に正しいファイル名が表示されていますか | |
| (例) | 生涯学習活動に関する演題発表の抄録および参加証等 | — | ✓ | ✓ | P.3 P.8 |
| 1) | 申請書・経歴 (様式1、PDFファイル) | 1) 疫学専門家を選択する | | | P.5-6 |
| | | その他の事項 | | | |
| 2) | 研究業績書 (様式2、Excelファイル) | 申請の種類は疫学専門家に☑する | | | P.6-10 P.16-17 |
| | | ポイント数※ | | | |
| | | その他の事項 | | | |
| 3) | 認定レポート (様式3 疫学専門家 Wordファイル) | | | | P.11-12 |
| 4) | 審査料の振込証明書 | — | | | P.4 |
| 5) | 論文 (研究業績書の「1.疫学研究に関する論文業績」に記載した論文(PDF)をまとめてZIPファイルにする) | — | | | P.6-7 |
| 6) | 生涯学習活動に関する演題発表の抄録および参加証等 (PDFをまとめてZIPファイルにする) | — | | | P.3 P.8 |
| 7) | 疫学専門家認定レポートに関する資料 (PDFをまとめてZIPファイルにする) | — | | | P.11-12 |

※同じ学術総会への参加と演題発表で重複してポイントをカウントすることはできません。
ひとつの学術総会に付随して行われるセミナーはいずれか1件のみを算定できます。